

白熱のT&Fシーズン開幕

GP プレミア **第1戦**
TOKYO Combined Events Meet 2019
 4.20~21 東京・駒沢公園競技場

日本グランプリシリーズ・プレミアの「TOKYO Combined Events Meet 2019」は4月20日、21日の2日間、東京・駒沢オリンピック公園陸上競技場で行われた。ドーハ・アジア選手権と日程が重なった影響で顔ぶれはさみしかったものの、男子砲丸投では森下大地（第一学院高教）が日本歴代6位の18m28をブットして快勝。男子十種競技は川崎和也（渡辺パイプ）が自己タイの7679点で、女子七種競技は伊藤明子（筑波大院）が5308点でそれぞれ制した。
 [P164に上位成績]

男子砲丸投は社会人2年目の森下大地（第一学院高教）が好記録を連発した。

182cm、123kgの身体をサークル上で回転させ、1投目でいきなり自身初の18m超えとなる18m05をマーク。2投目はさらに記録を伸ばして、日本歴代6位の18m28を放った。日本記録（18m85）保持者の中村太地（ミズノ）はアジア選手権出場のため不在だったが、3月下旬の国士大競技会で18m13を投げている佐藤征平（国士館クラブ/現・新潟アルビレックスRC）や、前日本記録（18m78）保持者の畑瀬聡（桜門陸友会）らを抑えて頂点に立った。

「1、2投目ともターンはゆっくりで、足の位置や構えを意識しながら投げました。2投目はしっかりと砲丸を押し切ることができたと思います。試合では力んでしまうことが多かったですが、今日はリラックスして練習通りに投げることができました」と充実した表情を見せた森下。これまでの自己記録は筑波大時代の2017年、日本学生個人選手権の優勝記録だった17m90。その大会以来となる自己ベストと全国タイトルを手にした。

兵庫・滝川高では3年時の12年新潟インターハイで2位。大学で回転投法を始め、4年時の16年は自己記録を学生歴代8位の

男子砲丸投 日本歴代10傑 (2019.5.3時点)

18.85	中村 太地 (チームミズノ)	2018. 5.20
18.78	畑瀬 聡 (群馬総合ガードシステム)	2015. 6.28
18.64	山田壮太郎 (法大4)	2009.10. 5
18.53	野口 安忠 (日大4)	1998. 5. 3
18.43	村川 洋平 (スズキ自販)	2006. 7. 2
18.28	森下 大地 (第一学院高教)	2019. 4.21
18.20	大垣 崇 (札幌陸協)	2007. 7.15
18.13	佐藤 征平 (国士館クラブ)	2019. 3.24
18.07	山元 隼 (フクビ化学)	2017.10.14
17.94	大橋 忠司 (チームミズノ)	2008.11. 3

※太字は今季マークされたもの



男子砲丸投 森下 18m28! 日本歴代6位の快投でV

▲男子砲丸投で日本歴代6位の18m28をブットして優勝した森下大地（第一学院高教）。5月6日の水戸招待では18m02（2位）と2戦連続で18mオーバー

17m54まで伸ばし、日本インカレ、関東インカレでいずれも2位を占めた。

翌17年は、卒業せずに大学に残り台北ユニバーシアード出場を目指したが、念願の代表入りはならず。その後、「気持ちが切れた」時期もあって1年あまり、成績が伸び悩んだという。しかし、昨年10月の福井国体（成年2位）を契機に前向きな姿勢を取り戻し、トレーニングに励んだ。

この冬は拠点の筑波大だけでなく、他大学にも赴き、強豪選手と合同トレーニングを実施。日本記録保持者の中村とも練習を行い、上半身など筋肉の各部位を細かく鍛える補強を教わったという。「今まで僕はあまりやってこなかったところの内容で、投げる時により力が入るようになりました」と森下。充実したトレーニングの手ごたえは2月頃から感じるようになり、練習では18mを越え、さらに18m50付近まで届くようになった。日本人9人目の18mプッターへ予兆はあった。

シーズン序盤で早くも18m台を2度マークして上々の滑り出しを見せた森下。それでも「3、4投目でターンをスピードアップしたけど、砲丸を押し切ることができませんでした。速くてももしっかり動きができるようにしたい」と話す。その目線は日本人がまだ到達していない19mを見据えている。